

松井英俊先生回顧録

広島文化学園大学看護学部 副学長

佐々木 秀 美

平成25年11月、風のようにあっという間に、一人の看護教員が逝ってしまった。あの時は広島文化学園大学のみならず彼と親交を深めていた多くの者が突然の訃報に即し悲しみの中にいた。死を目前にしたとき、看護専門職者として自身の病気について熟知していたであろう松井英俊教授の胸中に去来したことは何であったか。その一か月前に「エンドステージかな?」と言った教授に伝えようがなかった。「身体が動かなくて看護学部に出勤できなくても、教員のブレインとして困った時には相談に乗っていきつづけるよ。」と言っていたのに病気に負けてしまった。55歳という早すぎる死であった。彼の夢や希望も打ち砕いた病気、強靱な精神に支えられていた彼の身体を弱めた病気、松井教授をこの世からそして私たちから奪い去った憎んでも憎みきれない病気。そもそもそれは何なのか?『ボヘミアの農夫－死との対決の書』¹⁾で農夫がしたように“病気”を被告にして裁判を起こしたくなるのが愛する者を奪った病気に対する家族の心境であろう。

松井英俊教授が本学部に着任したのは、彼が45歳のことである。屈託のない笑顔で「女社会の看護の世界で男性がいかに生きていくのか男子学生に教えていきたい。」という言葉が彼の最初の挨拶であった。時折、女性のように身体をくねらせて、右手を左の顔のあたりに当て、おどけた表情で何かを言うのもその実践の一つであったろう。

私が成人看護学教授時代に助教授として、糖尿病を含む慢性疾患の患者の看護の教育研究を行い、特に脳卒中看護が研究の中心にあった。そして学部長・研究科長時代には教育課程委員会委員長、実習委員会委員長として支えられ、副学長時代には、学生部長としておおいに支えてくれた。とにかく、断らない主義の彼は、教育推進上、困ったときには相談すると「まかせろ!」と言う、熱い精神の持ち主であり、心強かった。他の教員も同様であろう。看護学部のみならず、大学全体が悲しみの中にいた。特に成人看護学領域は大黒柱を失い、先に進めないくらいの悲しみの中にいた。私自身もそうであるが、「松井」という名前が出ただけで涙がでる状態である。その状況から脱出すべきであったことと、葬儀に参列できなかった学生や実習施設でお世話になった方々のために看護学部主催で「お別れ会」を開催した。その会はグリーンケアになったのか何とか、教職員が悲しみの中で、一步、前へ進むことができた。

さて、松井英俊は、昭和33年10月18日に広島県福山市に生まれた。県下の教育を高校まで受けた後、昭和52年には、奈良大学文学部地理学科に入学、自然地理学を専攻し、昭和56年3月卒業、文学士の学位を得たほか、測量士補免許を取得している。昭和56年4月に中国地図出版株式会社に就職、営業職として働いたが、思うところあり、同年10月に31日に退職した。11月には、広島第一病院で看護補助者として働きながら、昭和57年4月、広島准看護高等専修学校に入学、昭和59年3月に広島准看護高等専修学校卒業、准看護師免許を取得した。以降は准看護師として同病院で働きながら、昭和59年4月には、広島県立広島看護専門学校第二臨床看護学科入学、昭和62年3月に広島県立広島看護専門学校第二臨床看護学科卒業、看護師免許取得した。昭和62年4月からは、広島県立重症心身障害児施設わかば療育園に配属され、続いて広島県立広島病院（脳神経外科病棟）に異動、平成3年4月には、広島県立三次看護専門学校へ転勤となり、看護教員として基礎看護学及び成人看護学を担当した。中国地図出版株式会社退職後からの彼の教育体験、看護の資格取得へ向けた経済的にも自立した継続学習は人間形成へ大きく影響したであろう。学生への視線が常に暖かかったのも彼の苦勞の賜物であると考えている。

1) ヨハネス・ホン・テーブル著、石井誠士、沖本美和子翻訳；ボヘミアの農夫－死との対決の書、人文書院、1999年。同著は、愛妻を失って悲しんだ農夫が、「死」を被告人として神に妻を返せとの裁判を起こした裁判の双方の言い分と神の判決が下りるまでの顛末を記した物語。

平成5年4月に東京都立医療技術短期大学看護教員養成課程に入学、平成6年3月、同大学看護教員養成課程を修了した。この後、県立の2つの看護専門学校において、成人看護学の講義と基礎看護学実習・成人看護学実習指導にあたった。また、患者選択、学生の臨床での技術指導、病棟スタッフとの連携・調整にあたった。臨地では脳神経外科・心臓血管外科という日常生活ができるようになるまでの回復過程についての指導・助言を行った。平成10年4月には、再び、広島県立広島病院（脳神経外科病棟）へ異動となり、看護師としてその職務に従事する傍ら実習指導を担当し、脳神経疾患、心臓血管系疾患についてフィジカルアセスメントが中心の看護実践のための身体観察の重要性と看護過程について教育を推進した。加えて県立広島病院内の研究委員長として、看護研究の指導と病院医療情報システムの構築に携わった。

平成13年4月から広島県立広島女子大学大学院生活科学研究科人間福祉専攻修士課程に在籍し、「看護職の立場からみたインフォームド・コンセントの理論と応用」というテーマで修士論文を完成させ、平成15年3月に修士の学位が授与された。その間の平成14年4月には、広島県立広島病院（心臓血管外科病棟）に異動、看護師及び実習指導担当者として、脳神経外科病棟 実習指導担当者、心臓血管外科病棟 実習指導担当者、広島県立保健福祉短期大学・大学 実習指導担当者、県立広島病院看護研究委員、県立広島病院医療情報システム委員を歴任し、広島県立広島病院における教育能力向上に貢献した。

平成15年4月、呉大学看護学部助教授として着任し、成人看護援助論Ⅱ、Ⅳ、成人看護学実習、リハビリテーション看護論、先端医療看護論の授業を担当する傍ら、広島大学大学院保健学研究科（博士課程後期）に入学した。博士課程における研究テーマは、「脳卒中の予防講座とその教育評価」であり、積極的に「脳卒中の予防と対処法講座」と題して、呉市、広島市等の老人会、女性会、運動普及推進協議会等の団体へ、学生の寸劇を交えた生活習慣病予防看護活動を実践した。呉市および周辺地域住民の健康推進教室の開催では、学生の授業の一環（成人看護学概論）として、地域住民に骨密度、動脈硬化測定を実施している。意識障害患者の看護実践体験における教育活動では、意識障害患者の看護で著名な北海道麻生脳神経外科病院において見学、実践体験を行っている。

学生が、高血圧と動脈硬化も指導が行えるように「成人病予防シリーズ」として脳卒中と糖尿病の予防ビデオ、動脈硬化・メタボリック予防ビデオを作製した。最近の人々には視覚的な教材が望ましいので、作成したビデオを持って地域に出かけ、地域住民に「予防と対処法講座」という出前講座を開催した。学生も帯同し寸劇を演じて、より住民にわかりやすいように説明できた。脳卒中予防と対処法ビデオは、脳卒中の易学的な知見から救急対応、検査・診断、リハビリテーションまでのプロセスについてまとめたものであり、糖尿病予防ビデオは、糖尿病の易学調査をはじめ糖尿病予備軍の重要性や検査・診断、とともに、薬物、食事、運動療法といった糖尿病予防対策についてまとめたビデオである。動脈硬化・メタボリック予防は疫学調査をはじめ動脈硬化・メタボリック症候群にならないための運動、食事についてまとめた。さらに検査・診断についてもわかりやすいようにアニメーションを用いた。生活習慣病予防ビデオでは、上記の3つのビデオ内容を一般住民にわかりやすいように短時間でも理解できるようにまとめた。

教授法の改善にも意欲的に取り組み、その実践例として、学内演習で学生の想起学修に主体を置いた技術教育の方法を考案し、成人看護学実習後の学内での演習として、ジョン・デューイの反省的思考を取り入れ、実習での場面を想起させ振り返り学修を行った。その間に作成した教科書、教材は糖尿病、高血圧、動脈硬化の患者への教育指導パンフレットの作成、脳卒中予防ビデオ作成、糖尿病予防ビデオ作成、動脈硬化・メタボリック予防ビデオ作成、生活習慣病予防ビデオ作成であり、主としてビデオ教材の開発である。その他、成人看護援助論Ⅱの授業で、「生涯にわたり疾病コントロールを必要とする人の看護」において、糖尿病指導について学生とともに冊子を作成した。

平成18年4月には、呉大学看護学部教授に昇格、教授として教育研究を推進する他、呉大学大学院看護学研究科 教授として、特別研究、看護援助技術論、実習指導論、老年看護特別実習、先端高度医療看護特論、臨床看護管理特別実習を担当した。平成21年4月より、広島文化学園大学（平成21年4月呉大学より名称変更）看護学部教授及び、広島文化学園大学大学院看護学研究科教授として活躍した。所属している学会は日本看護学会、日本看護研究学会、日本社会福祉学会、日本生命倫理学会、日本看護

福祉学会，日本臨床医療福祉学会，日本脳神経外科救急学会，日本脳神経看護研究学会，日本医学看護学教育学学会，日本脳卒中学会，日本慢性期看護学会，日本看護学教育学会，日本循環器病予防学会，日本意識障害学会，日本循環器看護研究学会等多岐にわたり，本学部における教育研究活動を加速した。

外国における研究活動も精力的に行い，脳卒中専門看護師教育の調査として，米国テキサス州テキサス大学とメリーランド大学において脳卒中専門看護師の育成についての研究調査を行った。スペインバルセロナにて開催された国際脳神経看護研究学会（WFFN）にて国際的な知見を取り入れることができた。次回の国際大会に向けての様子を知り研究発表に生かすことができた。

平成20年度戦略的大学連携支援事業「海・技・人の光る呉市周辺沿岸島嶼部の総合人材育成」事業に関わり，平成21年3月には，急傾斜地用ストレッチャーを呉高専／藤原工業の産官学として開発した。戦略的高専大学連携センター事業として市民セミナーを豊田郡大崎町，呉市豊町，竹原市，呉市下蒲刈町，呉市蒲刈町，大崎町木江，竹原市忠海町で開催した。

平成20年度文部科学省戦略的大学連携支援事業では，市民講座のとりまとめを行なった。おもに，脳卒中予防対処法とAEDの使用方法及び開発した救急医療情報セットについての報告を行い，地域住民に啓発活動を行った。呉市周辺沿岸島嶼部における救急救命時の対処に関する搬送機材及びシステム構築に関する研究として救急医療情報セットと称したペットボトル材のプラ容器内に，個々人の住所，氏名，生年月日等の基本情報，かかりつけ医，緊急連絡先，内服薬，現病歴，既往歴，救急隊への伝言などを記入し，冷蔵庫に保管してもらい冷蔵庫の扉には「救急セットが入っています」と記載してある10 cm × 10 cmの丸形のシールを貼付してもらう。救急隊が到着しマークを確認し救急搬送を行うことで急病者対策と急病者の合併症を最小限に食い止め患者の退院後のQOLを高めることにつなげることを目的に対象となる島嶼部地域の全世帯に配布した。

平成21年8月からは，看護技術の診療化をめざす研究プロジェクトを立ち上げた。同プロジェクトの目的は，意識障害患者の生活の再構築をめざしていくことと，座位姿勢や整容動作，清潔動作等の看護技術が診療報酬につながるものとしてのエビデンスを検証することである。

大学教育高度化推進特別事業では，自主ビデオ作成による成人病に関する住民の意識調査の教育研究を行い，教員と学生が共同で成人病（脳卒中，糖尿病，高血圧，高脂血症）予防のビデオを作製することにより知識を深め，そのビデオを使用した出前講座を開催し地域と密着した中で成人病予防とその対処法について教育研究を行った。その他，看護職の施設管理者・定年退職者等を対象に就業の斡旋をはかるための講習会において，フィジカルアセスメントの講義，日本脳神経看護研究学会全国学会学会長に就任，日本脳神経看護研究学会を呉駅キャンパスに誘致し開催した。

平成23年3月には，呉・芸南地域において健康講座と題して「脳卒中の予防と対処法」とAED（自動体外式除細動器）の取り扱い方法や骨密度測定・血圧測定を実施し，地域住民の健康意識と救急意識について調査した。離島では，不安傾向は88%を占め，架橋後の地域も46%であり，地域特性も含め，今後の研究の課題であると考えている。その他，『わかりやすい介護技術』を出版した。同著は，介護福祉士国家試験実技試験のための分かりやすい介護技術についてまとめた書物であり，他13篇の著作がある。

教育上の能力に関する大学等の評価，老年者疾病予防に関する出前授業などの積極的推進と高齢者救急体制づくりによる地域貢献及び地域住民への教育のための教材研究では，高齢者に多く発症する脳卒中予防講座と呉地域を対象にした，島嶼部救急救命システム作りを積極的に推進，その教育に対する教材研究を積極的に推進した。成人看護領域では教授として教育研究の推進的役割を果たすと同時に，看護実践能力向上のための教授法の構築および教材研究を組織的に実践し，成果を得ている。看護学部学生部長として，学生の自治会活動・学習支援・相談の中心的役割を担い，その職責を十分に果たした。

以上，記したように，松井英俊教授は，広島文化学園大学看護学部のみならず，大学全体に貢献し，教職員・学生たちから如何に愛されたか理解できよう。また，日本の看護学の深化・発展に如何に貢献したかということである。平成14年1月には広島県看護協会から第51回看護研究学会努力賞，平成16年10月には，脳卒中フォーラム実行委員会から感謝状，平成17年4月には，広島市PTA協議会から感謝状が贈られた。

彼のお別れ会は，看護学部が提携している実習施設のみならず，所属している学会や地域の多くの方々が



郷 ひろみとその歌唱法 + 萩原流行の顔写真 = 松井英俊
お二人の写真は Wikipedia より

参列して厳粛な中にもユーモアのあるひと時であった。私たちが知らない夫や息子・父親としての松井英俊、ご家族が知らない大学教員としての松井英俊の足跡は、その映像からしっかりと再現され、ご家族にとっては大変、暖かな人間、松井英俊であった。彼の特異な宴会芸は「郷 ひろみ」の「2億4千万の瞳－エキゾチック・ジャパン－」である。以下の写真でもわかるように、松井英俊の「2億4千万の瞳－エキゾチック・ジャパン－」は萩原流行（ながれ）が歌う「郷 ひろみ」の歌という事になる。「億せんまん……、億千万……」と松井英俊は歌う。萩原流行そっくりの外形で演じる彼の歌声は、「郷ひろみ」であり、アクションスターなみの舞台を演出し、年々、磨きがかかっていた。飛び上がってスタンドマイクを半分倒す手法はロック歌手なみである。

最後の年は「危ないから飛び上がらないで！」と頼んだのに、看護学部は、宴会芸をする人物に欠けていたから、飛び上がってふらついた。彼はその分を埋め合わせようと努力する。そんな訳で、大学の活動映像はご家族に生の人間、松井英俊をよみがえらせて大変喜ばれた。そのDVDは、彼が所属していた成人看護学領域の編集であり、ご家族に贈与されたことは必然である。

以上、書きつくせないほどの、彼の略歴及び本学看護学部での足跡であるが、あの若さで逝ってしまった松井英俊の生涯半ばでの悔やまれる人生のお別れには、一言では済まされない思いばかりが残る。松井英俊教授は、本学の名誉教授として永遠に看護学の名誉ある教授職としてその名が刻まれた。

松井先生！広島文化学園大学は本年度で50周年を迎えました。本学部はこれからも先生の教育・研究に関する基盤を引き継ぎつつ、新しく創意工夫しながら、絶えず、深化・発展していくことを改めて誓います。だから、松井英俊教授は、私たちが望む場所、時間を問わず、絶えず、心に念じたときにはすぐに駆け寄ってくれる存在であること願うと同時に、松井英俊教授のご冥福を心より、祈念し、筆をおくこととする。

平成26年7月27日
広島文化学園大学看護学部 阿賀キャンパスにて

思い出のアルバム



出前講座



フラワーフェスティバル
(卒業生の皆さんと)



学会発表



大山登山



災害訓練（授業）、（急傾斜地用ストレッチャー）